

京ヶ倉 山行報告

【山域とルート】筑摩山地 京ヶ倉～大城

【登山方法】ハイキング

【日程と天候】2019年4月20日 快晴

【メンバー】CL 柘植、SL 室(昌)、山内、鈴木(憲)、安岡、渡辺(純)、鈴木(愛)、清野(記録)

【行程】生坂海洋センター駐車場 9:20→京ヶ倉登山口 10:00→おおこば見晴台 10:45→京ヶ倉 11:30→大城 12:00→はぎの尾峠 12:30→眠り峠分岐 13:00 眠り峠登山口 13:10→生坂海洋センター駐車場 14:20



往路のハヶ岳 PA から甲斐駒の雄姿



なぜここに海洋センター？出発地点にて



桜が満開で気分も爽快！



春まだ浅い尾根筋

【内容】

生坂海洋センターに駐車し、京ヶ倉登山口をめざして生坂小学校方向へ舗装された坂道を登って行く。沿道に植えられた沢山の桜は満開だった。薄桃色に包まれた桜並木を通り、振り向くと雪をかぶった北アルプスの山々を望むことができた。やがて動物除けフェンスを通過して、京ヶ倉登山口のある『こや城跡』に出た。ここは駐車場にもなっていて、すでに数台の車が駐車していた。

葉の落ちた明るい落葉樹と赤松の樹林の中を登っていくと、おおこば見晴台という少し開けたところに出た。ここからは真っ青な犀川を堰き止めたダム湖、新緑と山桜に霞んだ生坂村、後方に真っ白な常念岳を中心に大滝山、蝶ヶ岳、大天井岳などの北アルプスの峰々を眺めることができた。その美しさに皆感嘆の声をあげていた。さらに進んで行くと燕岳、東沢岳、餓鬼岳、不動岳、北葛岳、針ノ木岳、蓮華岳、岩小屋沢岳、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳まではっきりと望めるようになってきた。



犀川の向こうに穂高～槍～常念～蝶～餓鬼岳方面 後立山連峰（蓮華～爺～鹿島槍～五竜～白馬三山）

このあたりから先は、ロープを張った急登や岩場が出てくる。稜線に出て少し行くと、足場の狭くなった馬の背という岩場になった。ここからは安曇野松本平の絶景が広がっていたが、ちょっと怖かったので立ち止まって眺めるといふわけにはいかなかった。その先も急な岩場が続いて緊張したが、ヒカゲツツジがその清楚な姿で心をなごませてくれた。ほどなく視界の開けた標高 990mの京ヶ倉山頂に着いた。ここは生坂山脈の最高峰で、戦国時代は番兵の見張り所で、のろし台があったということだ。生坂村、明科、安曇野、筑北方面がよく見渡せた。



馬の背を慎重に歩く



遠く四阿山、手前は岩殿山、中央の鋭鋒は冠着山(姥捨山)

次のピークの大城までは 20 分程の尾根道だが、さらに急な下りや登りがつづいた。ここ大城山頂も要害城があったらしく、展望がよかった。ここから先は左に安曇野や北アルプス、右に筑北の峰々を眺めながらの気持ちの良い稜線歩きだった。やがてなだらかな松林となり、はぎの尾峠を通過していくと東屋が見えてきた。近くに野天のトイレもあった。このあたりはグレースの森記念林というところだった。



険しい岩場が続く



馬の背をたてにしたような岩場を攀じ登る



京ヶ倉の山頂（大勢の登山者で賑わっていた）



大城への険しい縦走路



穏やかな大城の山頂は城郭跡



眠り峠分岐から下山開始



里山に満開の山桜が映える



大城 と 京ヶ倉

眠り峠分岐から下生坂方面へ、下山しはじめた。生坂村の田畑の緑色、犀川の青色、里山に点在する桜の桃色、北アルプスの白色、それらの美しい景色を堪能しながら下っていくと眠り峠登山口に出た。ここからは舗装された道路となった。動物除けのフェンスを通して、周りの美しい景色を楽しみながら畑のあぜ道を進んだ。やがて国道にでてしばらく歩いて生坂海洋センター駐車場に戻った。次に、安曇野の穂高川沿いにある早春賦の碑へ向かった。満開の桜並木から北アルプスの峰々を眺めることができ、安曇野の春を満喫することができた。

清野(記)

番外編



下山後に訪れた早春賦の碑と北アルプス



安曇野のホテルにて